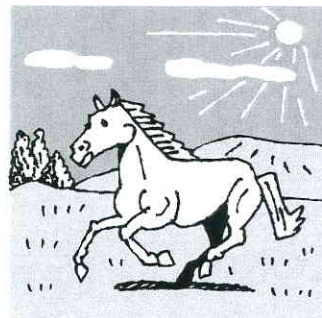


一月のテーマ
一年のはじめに



え・小島サエキチ

日々の行動を支える十の要諦

新

しい年が明けてから、十日あまりが過ぎました。お正月中に養った鋭気をもって、今年一年を充実したものとすべく、よいスタートをきりたいものです。

今週は、日々物事に取り組んでいく上での心得や姿勢について、心身両面から、ポイントをお伝えします。

倫理法人会の『幹部研修テキストVI』に、「倫理実践の要諦」という章があります。ここでは実践の要諦、すなわち日々行動する上での心得として、次の十項目を紹介しています。

(一) 即行 気づくと同時に行ないに移す。(二) 純粹 そのままである。何も考えぬ。付加せぬ。(三) 直行 まっすぐに行なう。(四) 結果を考えぬ 予想せぬ。(五) 緊張 実践は、ゆるんではだめである。(六) 一気呵成 一息にやり上げる。(七) おしとおす 一步も退かず押していく。(八) 反復不退 出来上がるまでつづける。(九) 不悲不喜 わるかったと悲しみに浸り過ぎない。よくできたからといって喜び

すぎて油断しない。(十) 慎終 後始末をよくする。

これらは、内容的に三つのグループに分けることができます。

(一)と(二)は、物事を始めるに際しての心がけです。たとえば、「今年はずぐにお礼状を出すぞ」と決意したとしましょう。しかし、たとえ気づいても、すぐに行動しなければ(礼状を出さなければ)、気づきはやがて雑念となり、果ててしまいます。グズグズしていたり、面倒がつて先送りになっていると、別の用件が生じて、せつかく気づいたこと、決意したことが無駄になってしまいます。

また、相手からのアドバイスや助言などをそのまま聞き、実行する姿勢(純粹)も大切です。(それが何の得になる?)などとゴチャゴチャ思い悩んでいたたり、できない理由ばかり考えていては、実行を通して味わえる喜びを体感することはできないでしょう。

(三)から(八)は、その物事を行なっていく際の心得です。行動を始めたなら、断固として継続する

こと。(人にどう思われているか?)などと思いつくことなく、目の前の物事に集中して取り組む

これが「直行」であり、「結果を考えぬ」です。この時、大切になってくるのが、(五)から(八)までの姿勢です。これらは「始めたことは必ずやり遂げる」という強い意志の表われです。

(九)と(十)は、物事を締めくくる際のポイントです。行動には失敗がつきもの。順調に成功することもあれば、うまく行かず頓挫する場合もあります。成功したからといって樂觀的になり過ぎたり、失敗したからといって悲観し過ぎない。「不悲不喜」とは、そういう意味です。そして、どのような時もしっかりとした「後始末」をやり遂げること。物事にはつきりとした終止符を打ち、次に備えるのが慎終です。

これら十項目は、新年に立てた決意や目標を実現させるための支えとなるでしょう。今年、昨年よりも一步も二歩も成長する自分になろうではありませんか。